

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組1】(A中学校及び全巡回担当校)

「居場所づくり」と「きずなづくり」の取組を行うにあたって、各学校は年に3回のアンケートを実施している。そこで、質問項目に関する内容について、主に学級委員会で話題に取り上げ、生徒自らで課題を見だし、主体的に取組を検討、実施することができるか試行した。学級委員会等の中で、実際に生徒たちがアイデアを出し、チャレンジした取組を紹介する。

第1は、「学級委員会主催放課後自習教室」である。宿泊行事や音楽祭が終わった後に楽しみにできるイベントができないか、学級委員会で話し合った際、「楽しいイベントを増やすのではなく、主体的に取り組む機会をもっと増やそう」、「授業が分からない人を減らそう」、「受験をみんなで乗り越えよう」という意見が出された。その意見をきっかけに、互いに教え合う場として自習教室を開くことになり、定期考査後も多くの生徒が参加することになった。



第2は、「昼休みに使える学年で交流できる居場所づくり」である。年度当初の生徒のアンケートの結果では、「学校が楽しい」などの質問項目で肯定的な回答の割合が約99%だった。この結果を維持するとともに、「当てはまる」の割合をより増やしていくために、学級委員会で取組を検討した。そこで、3年生のフロアにある空き教室を利用し、他学級の友達とも交流できる場所をつくった。当初の予想よりも、生徒同士の交流が盛んに行われ、机に理科や社会科のカルタを広げて、みんなで囲んで楽しむ様子が毎日見られた。



【取組2】(B中学校)

「自己決定の場の提供」を特に意識し、社会科のアジア州の単元で授業実践を行った。生徒がアジア州の6項目から学習したい項目を選択し、学習したことをスライドにまとめて発表・共有した。また、1人でも複数人でも学習してよいことにした。学習方法を自己決定し、それぞれが役割をもってスライドに学習成果を表現し共有することで、共感的な人間関係の形成、自己存在感の感受にもつなげることができた。

【取組3】(A中学校)

不登校対応の充実に向けて、全教員に対して年に3回研修を行った。各回のテーマを「未然防止」、「早期支援・長期化への対応」、「生徒指導を意識した授業」として行い、各回のつながりをもった研修にした。研修を受けた教員からは、「多様で複雑な要因による不登校は、担任1人で抱えず、不登校対応巡回教員に相談し、アドバイスを受けながら対応していくことが大切だ」や「家庭、学校、外部機関の連携が重要だ」などの声が聞かれた。

多様な学びの場を確保する取組

〔「早期支援」及び「長期化への対応」の取組〕の推進

支援会議（B中学校）

新たに教育相談委員会を立ち上げ、これまで生活指導部会と特別支援教育委員会で行われていた不登校生徒についての情報共有を一元化できるようにした。会議には、教育相談主任をはじめ、管理職、各学年担当、SC、SSWが出席することで、これまでよりも多面的にアセスメントを行うことができた。

アウトリーチによる支援（C中学校）

地区外のフリースクールに通う生徒について、不登校対応巡回教員が日中にフリースクールでの生徒の様子を見に行った。担任は授業等で日中の訪問が難しいが、不登校対応巡回教員が代わりにフリースクールでの生徒の様子を把握することで、その情報を担任や学年と共有することができた。

校内別室における支援（C中学校）

欠席が長期化している生徒や、これまでに校内別室での対応を行ってきた生徒を対象に、昨年に引き続いて「つなぐプロジェクト」を行った。パンフレットを作成し、参加生徒を募集した。これは、プロジェクトに参加した生徒が、自ら取り組みたいことについて考え、実際に取り組んでいく企画である。

今年も昨年と同様に学習に取り組みたいという声があったため、社会科を中心に学習を進めている。他にも美術の課題に取り組みたいという生徒もいた。



デジタル機器を活用した支援（D中学校）

不登校の生徒等に対し、学校に行く心理的ハードルを緩和することができるVLPを紹介した。VLPでできることをあらかじめ不登校対応巡回教員が教職員に周知し、保護者への紹介、説明、対応につなげた。VLPを活用し、毎日オンライン学習サイトで学習する生徒は前向きに進路選択を行うことができた。

関係機関との連携（D中学校）

校内の支援会議にSSWが出席し、不登校対応巡回教員との情報共有の回数を増やした。また、デジタル機器を活用した支援、VLPについて、教育支援センターと連携しながら対応した。



成果

新たに不登校になる生徒の割合の減少に加え、校内別室を利用する生徒の教室復帰等が増加した。また、SSWが関わることで、チャレンジクラスなど多様な支援先につなぐこと

課題

小学校から不登校が継続している生徒に対して、担任を中心とした早期の対応、具体的な支援について改善の余地が残る。